

不登校対策支援プラン

プランの策定にあたって

更新日 4 月 3 日

県内において不登校児童生徒数は増加傾向にある中、不登校対策では、対象や課題性に基づいた取組が求められています。全ての児童生徒を対象とした取組や不登校の予兆が見られる児童生徒への支援、欠席が継続している児童生徒への支援を組織的かつ計画的に行うことが必要です。

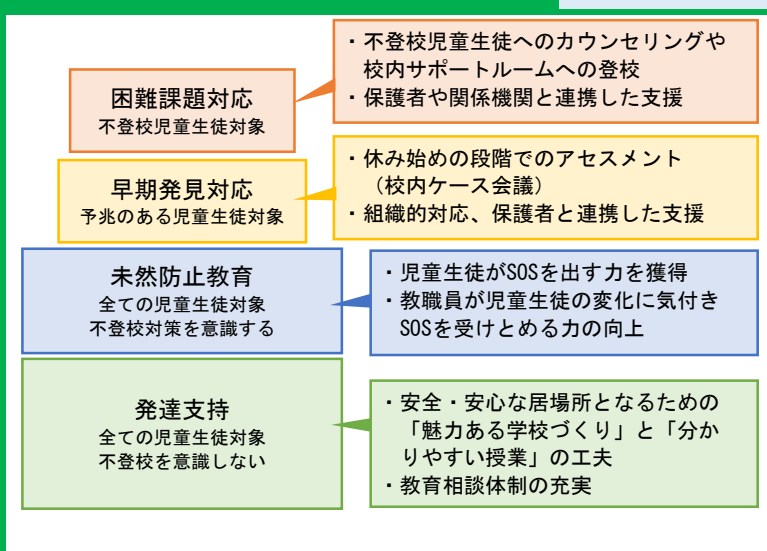
本校では、実態を把握し、以下の目標や取組を設定し、教職員が一丸となり対策を進めることで、誰一人取り残すことのない、持続可能な不登校対策や支援を行います。

不登校対策の目標

- 1 不登校傾向を示す生徒を早期発見し、情報を共有しながら不登校を未然に防ぐ。
- 2 校内サポート室等を活用しながら、生徒に応じた多様な対策を行い、教室での授業に参加する割合を増やす。
- 3 S C や S S W、各関係機関と連携しながら、生徒一人一人が安心した学校生活を送れるように努める。

不登校対策における重層的支援構造

参考：生徒指導提要R4.12



不登校対策チーム構成

管理職、生徒指導担当、学年代表、学年生徒指導担当、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、不登校生徒支援員、関係の担任等

不登校児童生徒支援関係機関等

市こども学び課、市子育て応援課、市教育支援センター、豊岡こども家庭センター、学校問題サポートチーム、警察、医療機関、県立但馬やまびこの郷等

4つの層での取組 等

発達支持

- ・生徒との日々の対話を通して、生徒たちを「承認」していく「人的環境のUD化」を図る。
- ・「授業のUD化」を通して、誰もが安心して授業を受けられる学習活動を行うとともに学習集団を育む。

未然防止教育

- ・生徒の家庭環境や人間関係を把握し、相談しやすい環境をつくる。
- ・S C、S S W、不登校生徒支援員と連携し、生徒にとって安心できる相談体制を構築することにより、生徒がS O Sを出せる力を身につけさせる。

早期発見対応

- ・日々の生活記録や定期的な教育相談から、生徒の変化にいち早く気づき、迅速に対応する。
- ・いじめアンケート、生活アンケート、i - C h e c k、心の健康観察から早期発見に努める。

困難課題対応

- ・校内サポート室と教育支援センターとの連携を強め、該当生徒にとって過ごしやすい環境をつくる。
- ・学校問題サポートチームとのケース会議等、各関係機関と連携した個別の対策について検討し、実行し、必要に応じて修正を図り、持続可能な対応を工夫する。